

平成 22 年 8 月 4 日

各 位

会 社 名 株式会社 クラレ
 代表者名 取締役社長 伊藤 文大
 コード番号 3405
 上場取引所 東証第一部
 問合せ先 経営企画室
 IR・広報部長 中山 守弘
 TEL (03) 6701-1070

平成23年 3 月期第 2 四半期連結累計期間および通期業績予想

の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 22 年 4 月 30 日に公表した平成 23 年 3 月期第 2 四半期連結累計期間および通期業績予想を下記の通り修正しましたのでお知らせします。

記

1. 連結業績予想の修正

平成23年 3 月期第 2 四半期連結累計期間業績予想数値の修正 (平成22年4月1日～平成22年 9 月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1 株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A) (平成 22 年 4 月 30 日発表)	百万円 175,000	百万円 19,000	百万円 18,000	百万円 10,500	円銭 30.17
今回修正予想 (B)	180,000	24,000	23,000	12,500	35.91
増減額 (B-A)	+5,000	+5,000	+5,000	+2,000	
増減率 (%)	+2.9	+26.3	+27.8	+19.0	
(ご参考) 前第 2 四半期実績 (平成 22 年 3 月期第 2 四半期)	157,065	9,758	9,409	5,221	15.00

平成23年 3 月期通期連結業績予想数値の修正 (平成22年 4 月 1 日～平成23年 3 月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A) (平成 22 年 4 月 30 日発表)	百万円 360,000	百万円 43,000	百万円 41,000	百万円 24,000	円銭 68.95
今回修正予想 (B)	365,000	48,000	46,000	26,000	74.69
増減額 (B-A)	+5,000	+5,000	+5,000	+2,000	
増減率 (%)	+1.4	+11.6	+12.2	+8.3	
(ご参考) 前期実績 (平成 22 年 3 月期)	332,880	30,451	28,925	16,315	46.86

2. 個別業績予想の修正

平成23年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正（平成22年4月1日～平成22年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A) (平成22年4月30日発表)	百万円 100,000	百万円 13,000	百万円 13,000	百万円 7,500	円銭 21.55
今回修正予想(B)	100,000	16,000	17,000	9,000	25.85
増減額(B-A)	—	+3,000	+4,000	+1,500	
増減率(%)	—	+23.1	+30.8	+20.0	

平成23年3月期通期個別業績予想数値の修正（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (平成22年4月30日発表)	百万円 205,000	百万円 29,000	百万円 28,000	百万円 16,500	円銭 47.40
今回修正予想(B)	205,000	32,000	32,000	18,000	51.71
増減額(B-A)	—	+3,000	+4,000	+1,500	
増減率(%)	—	+10.3	+14.3	+9.1	
(ご参考)前期実績 (平成22年3月期)	179,688	19,444	19,890	10,744	30.86

3. 修正の理由

- ① 当第1四半期連結累計期間は、各事業が回復基調にあったため稼働率の上昇や拡販、さらにコスト削減効果等の内的努力により、利益は想定を上回る水準で推移しました。
- ② 第2四半期以降の経営環境については、原燃料価格上昇、欧州経済の低迷やユーロ安・円高の影響が想定されます。こうした中で当社グループは、さらなる収益構造改善に向けて、原燃料価格上昇に対する製品価格改定や高付加価値化に注力していきます。また、各事業においては引き続き回復もしくは拡大基調にはありますが、第3四半期以降の事業環境につきましては不透明さが増しており、年初に置いた前提に基づく下半期（平成22年10月1日～平成23年3月31日）の業績予想を変更しておりません。

業績予想の前提

第2四半期以降の平均為替は米ドル90円、ユーロ110円、国産ナフサ価格は47千円/KLを前提としています。

主要事業の第2四半期以降の前提は以下の通りです。

ポパール樹脂はアジアでの需要が堅調に推移し、欧州でもユーロ安の影響から同域内での需給がタイトとなり販売数量の拡大が見込まれます。光学用ポパールフィルムは液晶関連の需要は引き続き堅調ですが、懸念されているユーザーでの在庫調整の影響を織り込んでいます。また、中期的な需要拡大に対応するため、西条事業所新ラインの増設に着手します。PVBフィルムは、太陽光発電向け封止材用途が伸びる他、主力の建築用途での需要が回復すると見えています。

<エバール>は高成長を続ける中国向け自動車用途、食品包装用途を中心にアジア市場で高い成長を実現し、欧米市場での需要も回復基調が続くと見えています。

メタクリル樹脂、イソプレンは、アジアを中心に需要伸長を見込んでいます。また、新製品や高付加価値品の拡販を織り込んでいます。<ジェネスタ>はLED反射板用途で年初の想定以上の販売数量拡大が見込まれます。メディカルは歯科材料が国内外とも堅調に推移すると見えています。

ビニロンはFRC用途で欧州向け販売数量が年初の想定より下回る見込みです。<クラリーノ>、<ベクトラン>は実施中の事業再構築の効果が着実に発現する見込みです。

平成23年3月期 連結業績予想数値（セグメント内訳） (億円)

		売上高			セグメント利益 (営業利益)		
		上期	下期	通期	上期	下期	通期
報告セグメント	樹脂	760	760	1,520	260	240	500
	化学品	400	420	820	25	40	65
	繊維	290	310	600	0	5	5
	トレーディング	550	550	1,100	10	15	25
	計	2,000	2,040	4,040	295	300	595
その他		290	300	590	20	20	40
合計		2,290	2,340	4,630	315	320	635
調整額		△490	△490	△980	△75	△80	△155
(四半期)連結損益 計算書計上額		1,800	1,850	3,650	240	240	480

上期＝第2四半期連結累計期間

下期＝通期－第2四半期連結累計期間

注) 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以上